

OTC国際会議(1977年5月)報告

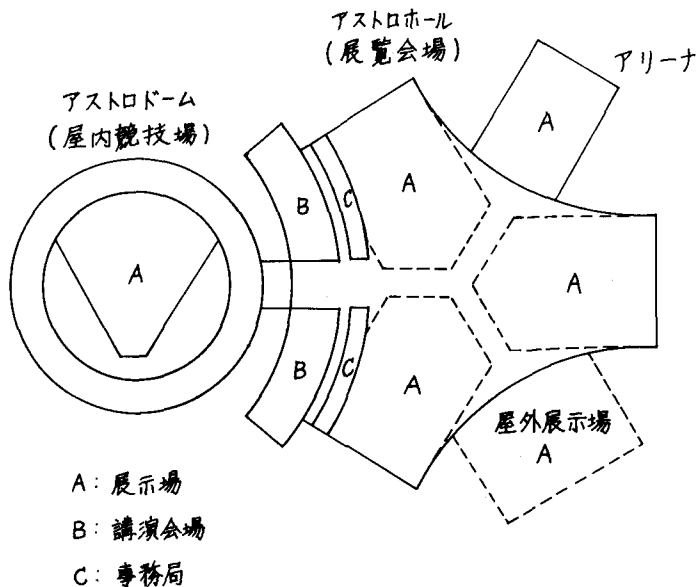
ECOR日本委員会会長 本間 仁

OTC (OFFSHORE TECHNOLOGY CONFERENCE) は毎年5月、米国TEXAS州のHOUSTONで開催される。この会議のMAIN EVENT はむしろ盛大な展示会にあるので、TECHNICAL SESSION(講演会)の方は、この展示会の片隅で行われているという感じである。

会場は市の中心から少し離れた所にある。全体の配置は下の図のようになっている。展示会にはASTRO-HALLと呼ばれる大展示場の他に、ASTRODOMEという屋内野球場や、隣接したアリーナが使用され、重機・機械類は屋外展示場に並べられる。講演会場や、事務局、会議室はASTRO HALL の中にあり、その周辺には広大な駐車場やホテルなどがある。主催者側によると会期中に5~6万人がこのCONFERENCE に集まるということである。

今年のOTC は5月2日から5日までの4日間開かれた。展示会には米国と初め世界の各国から、海洋関係企業1500社ほどが出展しており、日本からも鉄鋼、造船など約10社が参加している。石油、海洋構造物、通信など、直接の海洋関係産業のほか、材料、化学、機器その他、多数の関連産業からの展示があった。一目では見尽せない。我々の目にとまるものとしては、ノーウェーのコンテナ、各種の鋼構造物プラットフォーム、深海のボーリング台など、色んな種類の模型が出展されていた。しかし全く目新しいというものは思われなかったように思う。

TECHNICAL SESSION は提出論文約300、講演者は登録の時に申し込みをすれば買えることである。講演には8会場が使われているが、全体的に雰囲気は落付いておらず、突然の講演変更もあった。聴講にはあまりよいとは言えないようであった。講演課題の範囲は非常に広く、大体次のように分類することであるが、このCONFERENCE の特徴として、特に石油関係のTECHNOLOGY に重きがかり。今のところ、海洋関係などの論文は少ない。



OTC 論文課題分類

1. 海底地形, 地質学, 地球化学
2. 深海鉱業, ノテュル採取
3. 海洋構造物の力(風力, 波力, 設計外力, リスケアナリズ)
4. 耐震構造の問題, 構造物の振動
5. 鋼構造プラットフォーム等の設計基準, 設計製作
6. 重力構造物
7. 材料, 工法
8. 係留, モビロレコルトローラ等
9. 杭と杭打
10. 海底土質, 基礎の評価
11. ボーリング
12. 航海信号システム
13. リモートセンシング, 水中通信等
14. 環境汚染, サテライト利用の汚染調査
15. マンパワーと訓練

この講演会そのものが学術的集まりという感じは少いけれども、このように広い範囲にわたって数多くの論文の発表されるので、しかも毎年開かれるという事を考えると、その PROCEEDINGS の持つ文献的意義は大きいと言わねばならない。

この CONFERENCE の第二回に E C O R (ENGINEERING COMMITTEE FOR OCEAN RESOURCES) の役員会があり、私が現在 E C O R 日本委員会の会長である関係上、これに出席した。E C O R は、海洋の科学的研究に因り国際組織である S C O R に対して、工学的な意見を述べる目的で設置されたもので、本部は米国にあるが現在の会長は日本の岡村健二氏である。E C O R 日本委員会はその加盟団体の一つで、国内で各方面に分散している海洋関係の諸団体に対する情報の提供と共に、E C O R 本部を通じて国外に対する窓口となることを目的としている。今回の会議では、主として明年5月に WASHINGTON D.C. で開かれる総会と、その際の TECHNICAL SESSION についての打合せが行われた。SESSION の課題は CRITICAL ELEMENTS IN THE EXCHANGE OF OCEAN ENGINEERING TECHNOLOGY であつて、その後、引き続き OCEAN INSTRUMENTATION に関するセミナーが開かれる。

OTC にしても、E C O R にしても、広く技術の各分野にわたっているために、土木学会の会員の間ではなじみの薄いように感じられる。しかし海洋工学は元来、広い分野に跨るものであるから、そのつもりで対応する必要がある。土木学会の中からも、これらについて関心を寄せられることを希望している。